保育・教育実習生と子ども間のコミュニケーション支援
――カラーメンタリングを使用して――

Between Childcare・Child Education Training Students and Children Communication Support: Using Color Mentaling

下地　恭子
Yasuko Shimoji

Ⅰ　研究の目的

保育者を目指す学生達の教育の一環である保育・教育実習が無事に終了し、様々な経験をした学生達が一回りも二回りも大きくなって戻ってくる。金子（2014）も述べているように、「実習」は、講義などで学んだ理論や知識を実践し、その理論や知識を学生自身の子ども観や保育観と結びつけて統合的に体得することができる教科である。それゆえ、実習は保育者養成にとって欠くことができない重要な科目であり、保育者養成の集大成の科目と言っても、過言ではない。実習から戻ってきた学生達に、実習について尋ねると「楽しかった！」「子ども達がとても可愛いかったです」「やっぱり素敵な保育者になりたいと思いました」等々の明るい返事が即座に返ってくると同時に、一方で「日誌や指導案の作成が大変でした」とか、「扱いにくい子や何を考えているかわからない子もいたので少々大変で、どう接したらいいのだろうって考えてしまいました」というマイナスな感想等も返ってくる。そのような中で、保育・教育実習においての子ども達への対応能力というのは大変重要な事であり、現場で働くようになれば、保護者ともコミュニケーションを取り、うまくやっていかなければならないのも現状である。現代社会はSNSやAI技術の発展により、人とのコミュニケーション能力不足も問われている時代である。保育現場におけるストレスへの対処法やコミュニケーション能力を高めるための書籍が多く出版されている事からもコミュニケーションに難しさを感じている人が多いであろうことが推測される（杉山2018）。また、大久保（2014）によると、人とのコミュニケーションが苦手な子どもや若者も増加しており、子どもや若者をめぐる問題や事件は数多く報道されている事から、現代の子どもや若者については、否定的なイメージで捉えられ、過去と比較して悪くなった点や低下した点が話題になり、子ども達のコミュニケーション能力の著しい低下が言われている。飯田（2017）によれば、このようなコミュニケーションによって生じる困

り感や、苦手意識は、「相手の事がわからない」から生じる「不安」や、「恐れ」「拒否反応」等々があると述べている。

保育・教育実習生が、子どもを理解し支援するためには様々な方法が考えられるが、ここでは、色を手掛かりにしたカラーメンタリングを取り上げてみたいと思う。

カラーメンタリングとは、カラーメンタリスト（実験者）が、手順に沿いディレクションしていくだけで、改善しにくいコミュニケーションの困り感や関係性が視覚化され、改善する手がかりが掴めると、飯田（2017）によって言われている。また、カラーメンタリングは１万人以上の実証研究から得たデータをもとに、人間の個性を擬人化し人間関係をわかりやすくしている。相手と自分の個性を色で、「視覚化」していき、最初の関係性を見つけ、その相手の内面をひとつの色のみに決定してしまうのではなく、10色のキャラクターを使用し多面的に見ていくのである。しかし、カラーメンタリングに関する研究はほとんどされていないのが現状である。そこで、学生に負担が少なく、かつまた効果的な子どもとのコミュニケーション支援に結びつけていく事を目的とし、研究を進めていった。

Ⅱ　研究方法

（１）研究実施前の聞き取り

カラーメンタリングを始める前に、保育園・幼稚園・認定子ども園での、保育・教育実習（2022年５月～６月）を終了した２年生の学生達に、実習先での子どもとの関わりにおいて、様々な場面でのコミュニケーションの困り感や理解出来なかった事、不思議に思った事等について１人ひとりの学生に、実験者が聞き取りをする（約３分～５分程度）。各々のクラスにて聞き取りを行なう。その中からカラーメンタリング実施に該当する学生（実習で担当した幼児）を選出する。

今回は、気になる子や障がい児と診断された幼児や、０歳～２歳児（カラーメンタリングは３歳から実施可能）は該当しないため３歳以上の定型発達児のみを対象児とする。

（２）カラーメンタリングの実施【課題】

株式会社フラックスから発行されているカラーメンタリングを課題として使用する。（１）のカラーメンタリング実施前の聞き取りで、選別された被検者（保育・教育実習生）に一斉に実施する（学生自身の事と、担当した子どもについて質問をしていく）。

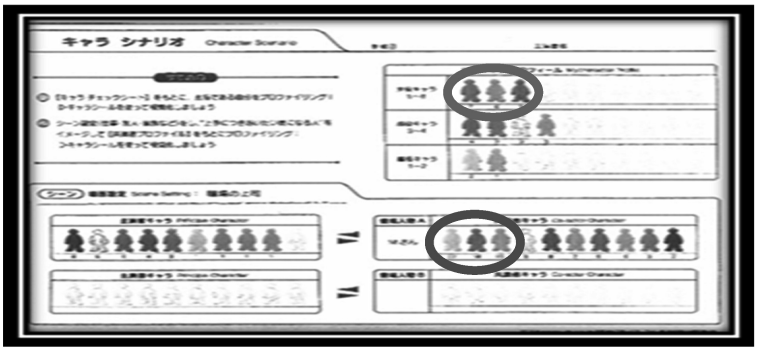
①主演者用キャラチェックシート

まず、被検者（保育・教育実習生）（主演者）に対し、実験者が質問項目を読み、今の自分にあてはまる項目をチェックしてもらう。質問項目は全部で10キャラ×８項目＝80問（レッドキャラプロファイル８問、オレンジキャラプロファイル８問、イエローキャラプロファイル８問、ピンクキャラプロファイル８問、グリーンキャラプロファイル８問、ブルーキャラプロファイル８問、ライトブルーキャラプロファイル８問、パープルキャラプロファイル８問、ホワイトキャラプロファイル８問、ブラックキャラプロファイル８問）で構成されている。

全ての質問終了後に、キャラシナリオという用紙に、自分自身のカラーを次々にプロファイルしていく。各々の色の質問項目の得点を出し、点数の高い順に、人型の色付きシールを人型の型に貼っていく（色鉛筆で塗っていっても可）。図❶のサンプルの右上の丸を参照。ここで、保育・教育実習生のキャラクターがわかる。

②キャラシナリオ（Character Scenario）

次に、対象となる相手（子ども）をプロファイルする。①と同様に、レッドキャラプロファイル～ブラックキャラプロファイルの質問に保育・教育実習生が、順々に答えていく。10キャラ×20項目＝200の質問。各々の色の相手に対する得点を出し、点数の高い順に、人型の色付きシールを人型の型に貼っていく（色鉛筆で塗っていっても可）。図❶のサンプルの右下の丸を参照。ここでは、子どものキャラクターが示される。



図❶　カラーメンタリング用紙のサンプル

（３）対象者

①聞き取りの対象者

沖縄県内の保育園・幼稚園・認定子ども園での保育・教育実習に参加した学生82人（２年生）で、その内訳は、女子学生75人・男子学生７人である（強制ではないので協力可能な学生のみにお願いした）。

②カラーメンタリングの対象者と対象児

①の聞き取り終了後、選出された学生達女子学生41人・男子学生４人の計45人である。そこで該当する子ども達が対象児となるが、沖縄県内の保育園・幼稚園・認定子ども園に所属する子ども達である。内訳は、３歳（男児）５人・３歳（女児）２人、４歳（男児）７人・４歳（女児）３人、５歳(男児)21人・５歳（女児）７人である。研究参加協力の意思を同意書の提出にて確認し、研究の主旨等を説明した。

（４）聞き取り・カラーメンタリング

実施期間

202X 年６月～202X 年７月

（５）倫理的配慮

被検者には、研究結果を使用するという事と、かつまた個人の特定ができないように配慮し、被検者に不利益等は生じない事を説明し、同意を得ている。本研究は、倫理委員会の承諾（2022年度小田原短期大学研究紀要－通信013）を得て実施された。

（６）知能・発達検査

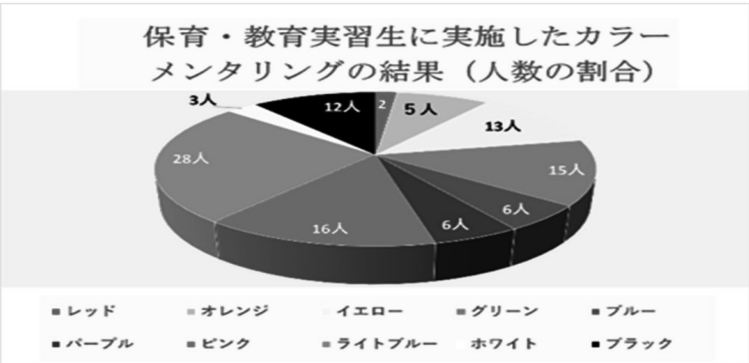
知能・発達検査等については、コロナ禍で、園児達との接触禁止であったため、実施不可能であった。

Ⅲ　研究結果

保育・教育実習終了後の学生に、実習先の定型発達児とのコミュニケーションの困り感等を聞き取りし、カラーメンタリングを実施した。

〈実習生のキャラクター〉

保育・教育実習生のカラーメンタリング実施で最も多かったキャラクターは、ライトブルーキャラクター（28人）、ピンクキャラクター（16人）、グリーンキャラクター（15人）イエローキャラクター（13人）であった（図❷を参照）。１人の学生が１つのキャラクターだけでなく、１人で２つ３つのキャラクターを持つ場合もあるのでこのように人数が重複している。またこの円グラフから読み取れる事は、成長するに従って、子どもに多いレッドキャラクターが少なくなっていくという事である。



図❷　カラーメンタリングの結果（保育・教育実習生）

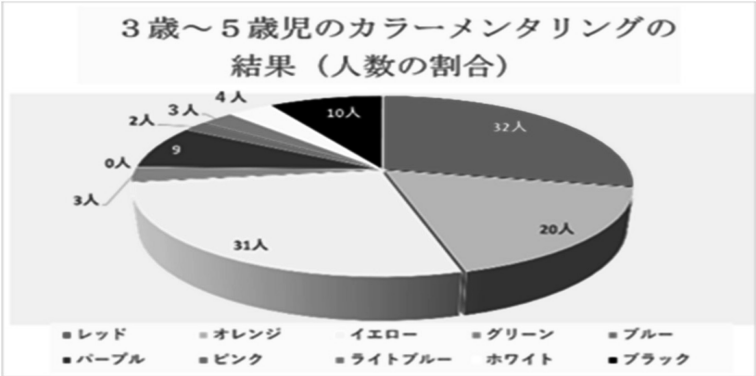
飯田（2017）によると、図❷のライトブルーキャラクターが示す意味は、厳しさから優しさへ！堅さから柔軟さへ変化した【大らかなフレキシブル人間】で、ピンクキャラクターが示す意味は、

頑張るから手放すへ！自信から謙虚へ！【甘え上手な癒し系人間】、グリーンキャラクターが示す意味は、認められたい願望が強く空気を読む【賢い優等生】、イエローキャラクターが示す意味は、楽しい事大好き！遊び心いっぱいの【少年・少女のような心を持つ大人】である。

この結果から、学生のキャラクターは、厳しさより安らぎや癒しを求め、融通をきかせてしなやかに対応でき、優しい気配りを心がけている事が見られた。また、実習先でお世話になるために、ご迷惑をかけないよう、その場の空気を読み取りかつまた周りと合わせ、最後には無事に実習が終了し実習先に認められたいという願望もグリーンキャラクターから推測される。

〈子ども達のキャラクター〉

一方で、定型発達児はというと、レッドキャラクター（32人）、イエローキャラクター（31人）、オレンジキャラクター（20人）、ブラックキャラクター（10人）、パープルキャラクター（９人）である。

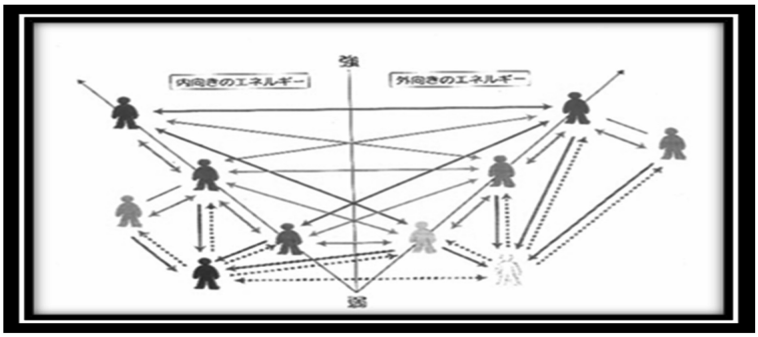


図❸　カラーメンタリングの結果（３歳～５歳児）

図❸のグラフより、１人の子どもが、１つのキャラクターだけでなく、１人で２つ３つのキャラクターを持つ場合もあるのでこのように人数が重複している。

また学生同様に、飯田（2017）によると、レッドキャラクターが示す意味は、何にでも一生懸命パワフルで疲れ知らずのわがままな行動【猪突猛進の熱血漢】である。次に示すイエローキャラクターは、明るく陽気で無邪気な子どもらしいエネルギーである【少年・少女のような心を持つ】。次は、オレンジキャラクターであるが、ポジティブな上昇志向、サービス精神で【場を明るくする楽観主義者】。この結果からは、明るく楽しい事が大好きで遊び心いっぱいでパワフルで疲れを知らない子ども達を反映している事や、実験前の聞き取りで、該当する子どもの様々な場面での、コミュニケーションの困り感や理解出来ない事、不思議に思っている事等が反映している結果ではないかと推測される。

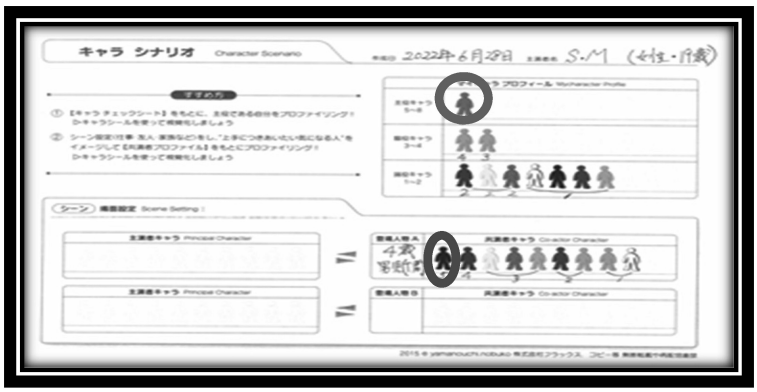
また、３歳～５歳児のどの年齢においても、女児と比較してみると、男児とのコミュニケーションの困り感の方が多い事がわかった。



図❹　コミュニケーション色彩エネルギー図

図❹は、コミュニケーション色彩エネルギー図である。色のエネルギーには、外向きのエネルギー反応と、内向きのエネルギー反応があり、それぞれに色の強弱もある。この特性を飯田（2017）は、色彩エネルギー理論と呼び、カラーメンタリングにおける、人間の感情や行動の特性を表す際の根幹であるとしている。我々が日々行なう様々なコミュニケーションの場面においても、この色彩エネルギー理論を当てはめる事ができる。互いに同じ色彩エネルギーを持っているのなら相手の事が理解しやすくなり、違う色彩であれば、何らかの違和感が生じる。

そこで、今回実施した45人の子ども達の結果の中から、特に興味深い結果（相違するキャラクター）２例を提示する。



図❺　４歳男児と、学生20代のカラーメンタリング

まず１つ目の例として、図❺の結果から観察される事は、学生側のカラーキャラクターは、レッドキャラクターである（右上の丸を参照）。そして、子ども側（４歳・男児）のキャラクターは、ブラックキャラクターである（右下の丸を参照）。図❸のコミュニケーション色彩エネルギー図を参考にすると、内向きのエネルギー（子ども側）と、外向きのエネルギー（学生側）で、コミュニケーションの相違が見られる。最初の聞き取りにおいても、学生側のコミュニケーションの困り感とし

て、「何を考えているのかわからない・気分によって色々性格が変わる」という事をあげていた。ブラックキャラクター【寡黙な不言実行人間】は、感情や考えを言葉にするのが苦手で警戒心が強く心を開きにくい。また上から抑えられる事を拒否し、自分の思いを貫こうとする意志も強く、精神的に強い自分を目指しているキャラクターであるのに、レッドキャラクター【猪突猛進の熱血漢】を持つ保育者が、エネルギッシュでやる気満々で声とリアクションが大きくパワフル、かつまた自分の気持ちや意見をはっきりいい、人を言葉や態度で攻撃する事がありせっかちで答えを急ぐキャラクターが介入してきては、ブラックキャラクターを持つ子ども側との間に、コミュニケーションの困り感が生じるわけである。次に２つ目の例として、図❻を提示する。

図❻　５歳女児と、学生のカラーメンタリング

学生側のカラーキャラクターは、ブルーキャラクター・ブラックキャラクターである。そして、子ども側のキャラクターは、レッドキャラクター・オレンジキャラクターである。図❸のコミュニケーション色彩エネルギー図を参考にすると、外向きのエネルギー（子ども側）と、内向きのエネルギー（学生側）で、コミュニケーションの相違が見られる。最初の聞き取りにおいても、学生側のコミュニケーションの困り感として、「担当する子どもは落ち着きがない。友達的な感覚で接してきて、いじられているのかと思うので、先生と呼ばれるように信頼されたい」と、話していた。レッドキャラクターと、オレンジキャラクターの特徴として、物怖じせず誰とでも話ができ、初対面の人とでもすぐ友達になれる、がある。それに対し、責任感が強くていい加減な事が大嫌いで自分を尊重してもらえない事にストレスを感じるブルーキャラクター【正義感人間】・ブラックキャラクター【寡黙な不言実行人間】警戒心が強く心を開くのが得意でないキャラクターである学生からすると、なぜ担当の女児は、馴れ馴れしく人の心に土足で踏み込んできていて、先生と尊敬されたいのに友達のように接してくるのであろうとか、落ち着きのない態度に困り感を抱くというわけである。

Ⅳ　考　察

この研究は、保育・教育実習後の学生と、子どもとの間のコミュニケーションによって生じる困り感や、疑問感等々の原因に対し、効果的な関わり（支援の仕方）が得られる事を目的に、カラーメンタリングを実施してきた。今回は、保育・教育実習の２週間～４週間の間のみで学生自身が再度実習先へ戻るという事が不可能なため直接支援につながるという所までは到達してはいないが、カラーメンタリング実施終了後、個々の学生に子どもの性格と、学生自身との関係性の結果を丁寧に説明し納得してもらった。今後現場に就職した際にこのようなコミュニケーションの困難な子や、困り感のあるタイプの子どもに遭遇した際には、なんらかの形で参考になり支援に結びつけられるのではないかと思われる。カラーメンタリングでは、目に見えないコミュニケーションのやり取りを、色彩エネルギーで置き換え表現する事で、コミュニケーションのどのような点がポジティブ要因やネガティブ材料になっているのかをわかりやすくしてあるので、改善しにくいコミュニケーションの困り感や関係性が視覚化され、改善する手掛かりが掴めるという点では簡単でわかりやすい。より自分を知り、相手を知るために、「色」というものを手がかりにし、思い込みというものがとれ、捉え方が変わり、自分や相手を「色」で擬人化する事により当事者意識が薄れて客観的に見る事ができるようになってくる。飯田（2017）は、客観的になると捉え方が柔軟になるので、コミュニケーションにおいてどんな困り感を持ちやすいのかが、自他ともに共感しやすくなると述べている。また、相互理解につながり、相手に対してどう対応したらいいのかのヒントが見つかり、実際にアプローチする場面でどのように実践していけば、相手の心をつかみ、人間関係をより改善する事ができるようになる。そして、苦手意識が自信にかわる。さらに、教育実習においても自分との価値観の違う子との接し方がわかり、この子にあった接し方や指導の仕方ができるようになる。大神（2019）も述べているように保育者として働き出した際には実習生とは異なる子どもへの関わり方が課題になってくる事も考えられるが、人とうまく接するという点では基本的には一緒である。「色」は「言葉」に変わり、自分自身を知り、相手を知るための大きな「手がかり」「ツール」になる。次回の研究課題として、男子学生の参加人数を増やすという事と、コロナ禍により該当する子ども達の知能・発達検査が実施不可能であったため実施するという事があげられる。

【キーワード】

保育・教育実習生（Childcare・Child Education Training Students）
子ども（Child）
カラーメンタリング（Color Mentaling）

参考文献

大神優子.（2019）保育実習生の子どもとの関わり－集団及び個人への対応の変化－. 和洋女子大学紀要　第60集；13-22

大久保智夫.（2014）子どものコミュニケーション能力低下説の検討　小学生と大学生を対象とした調査から. 香川大学教育実践総合研究29：93-105

金子智栄子.（2014）保育実習生のストレス対処に関する研究－４年制養成課程の学生における実習中の困難対処について. －文京学院大学人間学部研究紀要 Vol.15, pp.47～57, 2014.3

杉山喜美恵.（2018）保育者の専門性としてのコミュニケーション能力－初任保育者を対象とした調査結果を踏まえて－. 東海学院大学短期大学部紀要　44

塚田みちる.（2014）実習における〈子ども－実習生との関係〉の検討－保育実習・教育実習での体験をエピソード記述で描く－. 神戸女子短期大学　論攷59巻　1-16

飯田暢子.（2017）カラーメンタリズム　泰分堂

謝　辞

コロナ禍でありながらもこの研究に参加して下さった皆様に感謝致します。